

2021 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎志願状況全体概況

□一般選抜志願者数は2年連続減少へ

〔設置・日程別志願状況〕

| 設置 | 日程 | 2021年度 | | | | | 2020年度 | | |
|----|----|--------|---------|-------|---------|-----|---------|---------|-------|
| | | 募集人員 | 志願者数 | 志願倍率 | 増減数 | 指数 | 募集人員 | 志願者数 | 志願倍率 |
| 国立 | 前期 | 63,716 | 177,178 | 2.78 | -5,594 | 97 | 63,828 | 182,772 | 2.86 |
| | 後期 | 13,201 | 118,753 | 9.00 | -5,667 | 95 | 14,168 | 124,420 | 8.78 |
| | 合計 | 76,917 | 295,931 | 3.85 | -11,261 | 96 | 77,996 | 307,192 | 3.94 |
| 公立 | 前期 | 16,198 | 58,178 | 3.59 | -2,102 | 97 | 16,223 | 60,280 | 3.72 |
| | 後期 | 3,487 | 42,168 | 12.09 | +1,501 | 104 | 3,572 | 40,667 | 11.38 |
| | 中期 | 2,364 | 29,091 | 12.31 | -2,335 | 93 | 2,355 | 31,426 | 13.34 |
| | 独自 | 450 | 4,195 | 9.32 | +694 | 120 | 363 | 3,501 | 9.64 |
| | 合計 | 22,499 | 133,632 | 5.94 | -2,242 | 98 | 22,513 | 135,874 | 6.04 |
| 合計 | 前期 | 79,914 | 235,356 | 2.95 | -7,696 | 97 | 80,051 | 243,052 | 3.04 |
| | 後期 | 16,688 | 160,921 | 9.64 | -4,166 | 97 | 17,740 | 165,087 | 9.31 |
| | 中期 | 2,364 | 29,091 | 12.31 | -2,335 | 93 | 2,355 | 31,426 | 13.34 |
| | 独自 | 450 | 4,195 | 9.32 | +694 | 120 | 363 | 3,501 | 9.64 |
| | 合計 | 99,416 | 429,563 | 4.32 | -13,503 | 97 | 100,509 | 443,066 | 4.41 |

※専門職大学である静岡県立農林環境専門職大を除く。

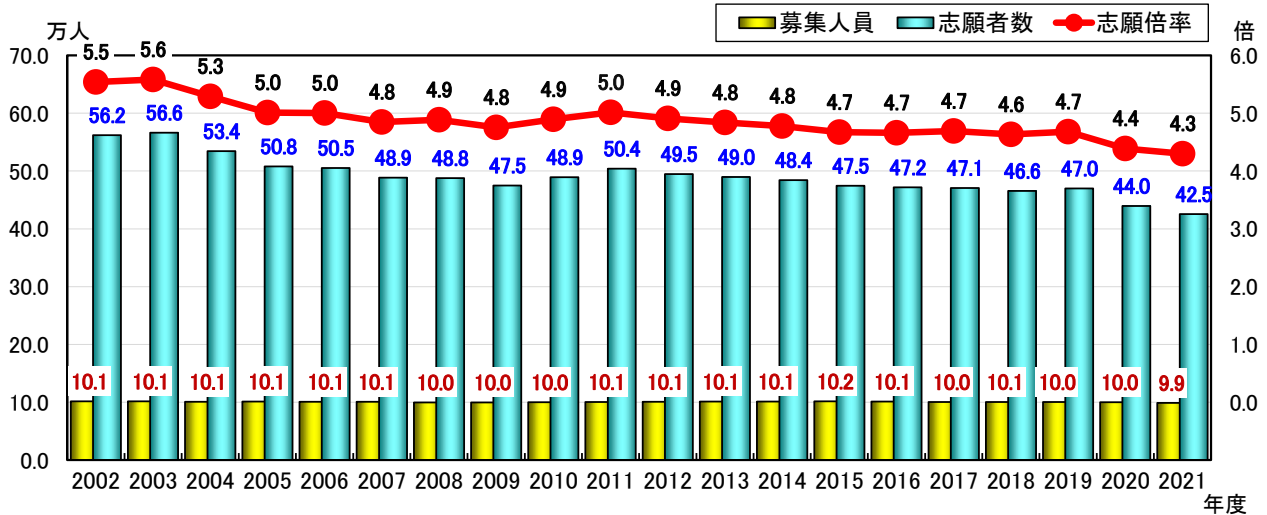
文部科学省が2月24日に発表した2021年度国公立大一般選抜の確定志願状況、及び独自日程の国際教養大、新潟県立大、三条市立大、叡啓大の大学発表の確定志願者数を合計すると、志願者数は429,563人で、前年度と比べて13,503人(97)の減少でした。大きく志願者数が減少した前年度に続いて、2年連続減少となりました。しかし、募集人員も国公立大全体で1,093人(募集人員前年度対比指数99)減少したことで、志願倍率は4.41倍→4.32倍へわずか0.09ポイントのダウンに留まりました。

志願者数減少の背景に、下記の3点が考えられます。

- ① 前年度の弱気な出願による既卒受験生の減少に伴い、大学入学共通テスト(以下「共通テスト」)の志願者数が4.0%減少したことに加えて、学校一斉休校に伴う学習の遅れや共通テストが大学入試センター試験(以下「センター試験」)よりも難易度がアップするという予想やコロナ禍による無理な受験を回避する受験生の増加もあり、例年を大きく上回る欠席率となり、国公立大志望者の基礎数となる共通テスト受験者数が8.2%減少。
- ② コロナ禍の中、長距離移動を敬遠し、都市部在住の受験生の地方国公立大への出願が減少。
- ③ 共通テストにおける文系3教科型(国語、地歴・公民、外国語)の平均点ダウンにより、文系3教科型入試を行う募集単位への慎重な出願。

2021 年度入試状況分析【国公立大】

〔志願者数推移〕（独自日程除く）



□国立大は10年連続減少、公立大も2年連続減少

【設置別】

国立大……前期は 5,594 人(97)、後期は 5,667 人(95)といずれも減少しました。この結果、国立大全体では 11,261 人(96)の減少で、10年連続減少となりました。

公立大……前期は 2,102 人(97)、中期は 2,335 人(93)とそれぞれ国立大と同様に減少しましたが、後期は 1,501 人(104)のやや増加でした。この増加の要因は、共通テストの 900 点満点の予想平均点が文理いずれもアップし、後期までしっかり出願した受験生が増えたこと、コロナ禍による地元国公立大の人気の高まり、共通テストでの合格目標得点が低く、地方において人気の高い保健衛生系の単科大学が多いことなどが要因と考えられます。公立大全体では 2,242 人(98)の微減で、5年ぶりの減少となった前年度に引き続き2年連続の減少となりました。

【日程別】

前期……募集人員は前年度並ですが、志願者数は 7,696 人(97)減少したため、志願倍率は 3.04 倍→2.95 倍とわずかに 0.09 ポイントダウンし、3倍を下回りました。

後期……志願者数は 4,166 人(97)のやや減少でしたが、後期廃止の大学もあり、募集人員は 1,052 人(94)減少したため、志願倍率は 9.31 倍→9.64 倍と 0.33 ポイントアップしました。

中期……志願者数は 2,335 人(93)のやや減少で、前年度の微減に続いて2年連続減少。募集人員は 9 人(100)増加で前年度並だが、志願倍率は 13.34 倍→12.31 倍に 1.03 ポイントダウン。